

「tag」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



写真で再発見! 多賀城のまちと暮らし

たがさぼでは、1月18日(土)、2月8日(土)の2回にわたり「写真で見つける昭和の多賀城講座」を開催しました。



これらは講座で使った写真です。どこか分かりますか

写真を集めて保存することって、なぜ大切なの?

昔の写真と今の様子を比べることで、まちや地域のうつり変わりを知ることができます。

写真を見ながら、多くの人と話しあうことで、それぞれの思い出が重なり、地域の思い出となっていきます。また、昔のまちの様子について話す、聞くことで世代を越えての交流も進みます。今回の講座やたがさぼで昔の写真を見た皆さんも、写っている場所やその頃の出来事についてお話しをして、当時は懐かしんだり、昔の様子を知って驚いたりしていました。

今の多賀城のまち並みを写真に残しておくことで、何十年後の市民の皆さんが「あの頃の多賀城はこうだったのか!」と気づくきっかけになります。

場所が分かった方は、その頃の様子を思い出してみましょう。分からない方は、分かりそうな人に聞いてみましょう。今まで知らなかった多賀城が見つかるかもしれません。

答えが気になる方は是非、写真展へ

「昭和の多賀城」写真展 開催!

日にち: 2014年4月1日(火) ~ 4月11日(金)
時間: 午前8時30分~午後5時 / 会場: 多賀城市役所1Fロビー
これまでに集めた昔の多賀城の写真を展示します。写真をご覧いただき、思い出話に花を咲かせたり、新発見をいただければと思います。あわせて昔の多賀城の写真のご提供もお待ちしています。詳しくはたがさぼまで。



講座の様子はたがさぼPressをチェック!

- ・「多賀城をアーカイブする!」2014年1月19日(日)掲載
- ・「多賀城をアーカイブする! その2」2014年2月23日(日)掲載



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **冬のお悩み「雪かき」を地域で解決!** 2014年2月13日(木)掲載
今年が多賀城も大雪が降りましたが、そんな時に役立つ、地域で協力して雪かきをする取り組みをご紹介します。バスの待ち時間を有効に使った雪かきの例もあります。

● **スケジュール管理や情報共有もこれ1つで! 無料サービス「サイボウズLive」** 2014年2月27日(木)掲載
団体のデータ保存、スケジュール管理やチャット機能を使った意見交換などを、インターネット上の専用スペースで行えます。

● **若者による社会を変える動きを応援** 2012年10月06日(土)掲載
若者の、社会をよりよくするための活動を応援する「オルタナS」。活動を「はたらく」「まなぶ」「あそぶ」の3つに分けて発信しています。

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味湧いたらたがさぼPressへ! *ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

NEW! たがさぼリニューアル!

昨年6月からたがさぼの改修工事が始まり、利用者の皆さまにはたいへんご不便をおかけしておりました。これまで、改修を終えた会議室なども一部ご利用いただいていたましたが、いよいよ4月1日から新たに以下の設備のご利用もできるようになります。

- ① エレベーターで3階までらくらく♪
- ② 2、3階のフリースペース (展示スペースや、交流サロンとして)
- ③ 301、302会議室の間の壁を外し1つの部屋として使えます (イベントなどで活用できそう)



新しくなった「たがさぼ」をぜひ活用ください。次号の「tag」にてリニューアルした「たがさぼ」を紹介する予定です。

市民が震災を伝える



～ことば・モノにこめられた想いととも～

震災を伝える活動に取り組んできた方々の視点を学び、市民ができることを考える「伝える学校」。仙台市、一般社団法人MMIXLab、NPO法人20世紀アーカイブ仙台、RE:プロジェクトが協働で取り組む震災メモリアルプロジェクトです。

東日本大震災から3年がたち、震災の風化が進んでいるとも言われますが、市民の手で伝えるべきもの、残すべきものがまだまだあります。今回は、「伝える学校」の企画の一つで、1月19日(日)、仙台市市民活動サポートセンターにて行われた「1995年と2004年の震災アーカイブを伝える」での阪神大震災、新潟県中越地震の事例を紹介します。

モノだけでなく、その背景や想いも一緒に残す ～1995年 阪神大震災の事例から

市民による震災記録の保存は、震災直後にボランティア活動をきっかけに始まりました。震災に関するものは何でも集めるところから始まり、写真や音声を収集する団体、手記集を発行する団体、遺構の保存に取り組む団体など、徐々に活動に特色が出てきました。現在も、さまざまな団体や機関に震災資料の提供がありますが、特に東日本大震災以降「何かの役に立ちたい」という気持ちから、市民からの資料提供が再び増えてきています。受け付ける際には、ただ資料を提供してもらって終わりではなく、その背景や想い、提供や保存に至るまでのやり取りも含めて一緒に保存することが大切だと考えています。そうすることで、本当の意味で「震災を伝える」資料となると思います。

伝えたい想いがあるからこそ、モノが残る ～2004年 新潟県中越地震の事例から

中越地震の経験と教訓を伝えるために、「中越メモリアル回廊」が整備されました。ここでは、写真、体験談、遺構などがさまざまな形で保存、展示されています。保存にあたっては、地域住民から何をどのように伝えていきたいか、意見を聞き参考にしました。中には、はじめは残す必要なしという意見もある中、現地を訪れる人たちとの交流を通して「大切に守り伝えたい」となったものもあります。

また、ハイキングを通しての震央位置の特定や、震災後再び行われるようになった地域の伝統行事・祭りなど住民とボランティアが関わったものも保存対象となっています。モノを残せばよいというわけではなく、そこに関わる人や物語が合わさり想いが伝わっていくのだと思います。

市民が震災を伝える意味

県や市町村、大学などでも震災記録の保存を行っていますが、なぜ市民も震災の伝え手になる必要があるのでしょうか。それは、市民の目線による記憶、記録は震災時の生活や体験をより深く、より市民に近い感覚で伝えられるからです。多くの経験をともにした人たちの共感を得ることができ、次の世代への教訓となります。



「伝える学校」の様子



高森順子さん
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター



山崎麻里子さん
長岡震災アーカイブセン
ター

市民1人ひとりができること

- ・地区の防災訓練などの際に、震災時の経験や想いを振り返ることで、経験や教訓を次の世代に伝えることができます。また、文章にしてみるのも1つです。「多賀城民話の会」や「しおクローバー」など、手記集を出している団体もあります。

- ・震災時の写真を市役所や収集している団体に提供することで、現在の状態と比較し、その場所がどのように復興したかを伝える手助けをすることができます。

- ・たがさぽPressにも関連記事があります！
「人と防災未来センターに行ってきました」
2014年3月30日(日)掲載

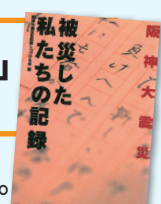


ブックレビュー

たがさぽ図書コーナーの中から活動に役立つ本をご紹介します

「阪神大震災・被災した私たちの記録」

阪神大震災を記録しつづける会 編 (1995年 朝日ソノラマ)



「阪神大震災の記録を残そう」。それも、マスコミに取り上げられないような、市民の体験の記録を残したい。

それが、いつか役に立つかもしれない。——のちに「記録しつづける会」の代表となる高森一徳さんはそう考え、震災後まもなく手記の募集を始めました。震災から2ヵ月で240通の手記が集まり、そのうちの73名の体験や思いがこの本にまとめられました。

朝早くで、何が起きたか分からない不安、恐怖。つぶれた家に閉じ込められた人の救出や、避難所生活での励ましあい、助け合う様子。家族や友人と再会した時の安堵と、失ってしまった悲しみ。自らも被災しながら、避難所で、病院で、街角で多くの人々のために奮闘した人たち。震災時に神戸を離れていて、何もできなかったもどかしさ。その手記一つひとつに、東日本大震災を経験した身として共感を感じ

るとともに、まちの復興や新たな生活に向けて前向きな文章も所々に見られたことに励まされました。

手記の募集と本の発行は1回だけにとどまらず、震災から1年後、2年後…と2005年まで毎年続けられました。数年経ってはじめて自分の思いや体験を書けた方もいれば、継続して手記を寄せている方もいて、その文章からは気持ちの変化も読み取ることができました。そして休止期間を経て阪神大震災から20年を迎える2015年に、再び手記集を発刊するための準備が始まっています。「阪神・淡路大震災の記録はまだ終わっていない」——かつて手記を書いた方の言葉に、「伝え続けること」の大切さがこめられています。



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ (価値) をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやります。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
http://www.tagasapo.org/